



インターネットで見る議会中継。後日編集され、住民はもちろん、住民以外の人もホームページ上からいつでも閲覧できる

情報通信分野の技術革新が著しい近年、行政や地域社会においては情報化の推進が強く求められています。地域コミュニケーションの形態が変化を遂げ始めた中で、小規模町村が試金石となつて新しい社会基盤整備に取り組んでいます。

先端通信技術を活用した地域情報化モデル（矢島町）

住民と行政を近づける

新しいシステムの構想

霊峰鳥海山の麓、四方を山に囲まれた盆地に、人口6,200人余りの矢島町があります。明治22年の町制施行以来合併することなく、1町村としては県内で最も長い歴史を誇る町です。

町では平成9年、庁内の若手職員だけで構成された事務改善のための委員会を設置し、庁内LAN構築の検討を始まりました。しかしその後、この委員会では国の補助事業の活用について検討を重ねて行く中で、「庁内情報化の推進」から「地域情報化の推進」へと構想が発展していくことになりました。

構想は、住民の誰もが欲しい情報を自由に引き出したり、発信したりできる「双方向化」

の実現により、情報化の恩恵を得られるシステムを構築するもの。しかし、高齢化率が30%に迫る同町においては、一般的なインターネットの活用だけでは、パソコン操作のできない高齢者などの「情報弱者」を無視してしまう形となります。そこで生まれた発想が、インターネットと同時に、高齢者等に操作の簡単で次世代のメディアとして注目されている、「TV電話」を活用しての2重システムという独自の提案でした。

採択となつた先進的情報

通信システム整備事業

平成11年5月、自治省による「自治体ネットワーク施設整備事業」の採択に向け準備を進め、8月からは「先進的情報通信システムモデル都市構築事業」に変更、11月に採

択が決定しました。この事業は、通産・郵政両省の支援により、地域情報化を積極的に推進する自治体に優先的に予算を充当する補助事業。両省合わせて補助対象は1/2、



矢島町情報ネットワークシステムの特徴ともよめる「テレビ電話」

残りの部分に対しても過疎債が充当できます。採択にあたっては、申請団体の計画を学識経験者で構成する国の外郭団体が、モデル事業として過去に事例のない先進的な取り組みであるかを審査する、非常に厳しいものですが、同システムはその独自性が認められ、晴れて採択となりました。

行政・福祉・教育・観光・災害支援 多彩な活用法

庁舎内に設置された総合情報センターを中核として

今年4月にインターネットとTV電話による「矢島町情報ネットワークシステム」が運用を開始しました。運用にあたって実施したアンケートでは、「議会中継を見たい」という要望が最も多く、この6月議会から中継が行われています。インターネットを使った議会中継は、市町村レベルでは全国で初めての試みとなりました。議会の模様は後日編集され、当日中継を見ることができない人でも、ネット上でいつでも見られるようになっていきます。中継開始後、町民からは意見や問い合わせが多数あり、町民の行政運営に対する関心が目に見える形で高まっています。地域情報の双方向化が、町民と行政との意思疎通の双方向化へと生かされています。このシステムの特徴であるTV電話は現在116台、う



高齢者等「情報弱者」の活用を優先(写真提供: 矢島町)

ち22台は、利用を希望する70歳以上の一人暮らしの高齢者に、遠く離れた家族と顔を見ながらの親密なコミュニケーションが図れるよう、2台一組で貸与しています。同時に、町の保健婦やデイサービスセンターのヘルパーが顔色を見ながら健康・福祉相談を行えるなど、独居老人が安心して暮らせる福祉保健支援システムともなっています。また、消防団幹部宅に29台を設置、災害発生時には一斉通報機能を活用した迅速な対応が可能となります。一般町民宅については、町民間のコミュニケーション及び町が配信する情報のモニターを希望

する家庭に、2台一組で1年間貸与しています。このTV電話はモニターに接続すると大きな画面でも見られることから、公共施設(日新館、寿康苑、役場ホール等)ではモニターを設置し、より多くの住民の利用を図っています。

この他、TV電話とインターネットを活用し遠隔な小中学校との交流学習などを行う学習支援システムや、花立牧場公園に設置したカメラで鳥海山等の映像をリアルタイムで提供する観光情報提供システム、災害現場の画像等の情報を通信衛星を利用して即座に伝えることが可能な災害情報提供システム、公共施設予約システムなど、同町のネットワークは多岐にわたる体制となっています。

光ファイバー通信網など 高度情報化社会の確立へ

国では、2005年をめぐりに、全国の各家庭において快適な情報生活が可能となるよう、光ファイバーを中心とした大規模な通信網を整備する

構想です。矢島町ではこれに先駆け、モデル事業としてさらなる地域情報の高速度・高度化に向けて、全世帯への光ファイバー等ケーブル網敷設を目指し、関係省庁に申請しているところです。「IT革命」という言葉が聞かれるようになって久しい中、いち早く始まった矢島町の地域情報化への取り組みは今後全国の自治体に到来する「情報化」という新たな社会基盤整備計画の試金石として今後注目を集めるものとなっています。



システムの中核 総合情報センターにあるインターネット関連サーバー